

阿久根治子

古事記に魅せられた女流作家



作家・阿久根治子は昭和8年に名古屋で生まれ、愛知県立女子短期大学（現愛知県立大学）国文学科に学び、当時学長だった国文学者の高木市之助に師事し日本古代文学を研究、後の文学活動の基礎を築きました。代表作である昭和44年出版の『やまとたける』では、古事記を題材に独自の視点でヤマトタケル伝説を書き、第16回サンケイ児童出版文化賞を受賞しました。その後も精力的に創作活動を続け、平成25年に80歳でこの世を去りました。

企画展では、ご遺族から寄贈された阿久根治子の資料から、児童文学をはじめ、詩、ノンフィクションやエッセイなど様々なジャンルの文学活動を行った阿久根治子の作品とその背景をご紹介します。



トークイベント

- ◆平成27年10月25日(日)13:30~15:00
- ◆会場 文化のみち二葉館 1階大広間
※観覧無料(要入館料) 当日先着順自由席
- ◆講演 井上寿彦 「愛知の昔話」
- ◆講演 山下達治 「阿久根治子の素顔について」
- ◆朗読 いのこ福代 民話「烏飲み爺」「食わず女房」
阿久根治子作品「やまとたける」最終章

名古屋・愛知の昔話

名古屋・愛知をコンセプトに、市や県の地名の入った日本の昔話や、グリム童話などに伝わるよく似た話など、郷土がもっている昔話を紹介します。



井上寿彦
1936年名古屋市生まれ。名古屋大学文学部卒、東海学園大学名誉教授。『三リットの月光』で講談社児童文学新人賞、『みどりの森は猫電通り』で、北川千代賞・新美南吉文学賞受賞。研究評論に『賢治、「赤い鳥」への挑戦』などがある。



山下達治
1949年名古屋市生まれ。郷土の文学研究会員、名古屋に関わる近代文学者の調査研究を行う。中生涯学習センターで『逍遙の開いた扉』、文化のみち二葉館で『逍遙の原点・美濃太田と尾張名古屋』などの講師。主な論文「小栗風葉と「青春」」など。



いのこ福代
「劇団うりんこ」を8名で創立し、33年間在籍。退団後は演出や朗読の指導などで地域の文化活動に参加。東北大地震後は「音つむぎネット」の仲間とボランティア公演に出かけ、東北の応援を続けている。2014年度に東海3県の優れた演劇人をたたえる第18回松原英治・若尾正也記念演劇賞を受賞。

主催・お問い合わせ

文化のみち二葉館
【名古屋市旧川上貞奴邸】

〒461-0014

名古屋市東区榑木町3丁目23番地

Tel, Fax 052-936-3836

<http://www.futabakan.jp/>

このチラシは古紙パルプを含んだ再生紙を使用しています。

「ドニチエコきっぷ」「一日乗車券」

を利用して入館の方は入館料割引 一般200円→160円



交通のご案内

- なごや観光ルートバス「文化のみち二葉館」下車
- 市バス「飯田町」下車、北に徒歩2分
- 基幹バス2号「白壁」下車、南に徒歩5分
- 地下鉄桜通線「高岳」下車、2番出口より北に徒歩10分
- 名鉄瀬戸線「尼ヶ坂」下車、南に徒歩12分

※駐車台数に限りがありますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。

